

JGAP認証審査まで

あと1か月！

動物科学部通信

Vol.12
令和2年
10月

今年度、動物科学部、そして専攻生の卒業研究として、豚でのJGAP認証取得に向けて活動しています。年内取得を目指して取り組んできましたが、ついに審査日が決定しました。来月11月19日（木）本校において審査が行われます。CFSによる全頭出荷など、様々な困難もありましたが、黒豚導入という目標を昨年度クリア。そして次は、豚でのJGAP認証取得を目標に、審査までの残り約1か月、模擬審査や細部の確認など、まだまだ頑張ります。



↑畜舎だけでなく、関連施設や機械も整頓しました。



↑多くの掲示を貼り、作業時のミスを減らします。

JGAP認証取得を目指す取り組みの中で、労働安全や家畜衛生を守るため、畜舎内外に様々な工夫をしてきました。初めて体験する人が多い、学校という特徴を生かした「誰でも安全にできる畜産」を目指し、掲示やマニュアル作りに取り組んでいます。日頃の管理をより安全に、より分かりやすくすることができるようになってきました。JGAP認証取得のために動いてきたことが、結果的によりよい農場作りにつながっていたことを実感します。自信を持って審査に臨めるようしっかりと準備していきます。

担当：角谷 優翔

専攻生のつぎやき
私たちは実習で扱っている家畜を含めた動物は、人を癒してくれる生き物であり、家畜の生き物でもありません。そう思うことも哀れですが、生きるためには必要です。そのため、畜産物を食べるときにはしっかりと感謝しましょう。そんなことを、私は動物科学専攻の鏡としてみなさんに伝えたいです。

私たちが実習で扱っている家畜を含めた動物は、人を癒してくれる生き物であり、家畜の生き物でもありません。そう思うことも哀れですが、生きるためには必要です。そのため、畜産物を食べるときにはしっかりと感謝しましょう。そんなことを、私は動物科学専攻の鏡としてみなさんに伝えたいです。



CSSFワクチンと移行抗体

田原市内でCSSF陽性イノシンが発見されたため、繁殖豚舎は生徒立入禁止になっています。本校でもCSSFワクチン接種を実施していますが、実は生まれた子豚たちにはまだワクチンを打っていないからです。そのため、現在豚舎には、CSSFワクチンを打っていない子豚は約30頭います。私たち人間は、胎盤からの免疫を持って生まれてきます。しかし多くの動物は、生まれてから母乳を飲むことで免疫を獲得します。このような、親がもたらう免疫を移行抗体といいます。小さな子豚にワクチン接種をしても、移行抗体があることで、CSSFワクチンに対応した抗体が作られないと言われているため、子豚への接種は移行抗体が減ってくる生後50日を過ぎたころとされています。子豚一頭であるうと、感染が確認されれば、全頭殺処分です。野外の物を、持ち込まないようになんて注意しましょう。

